

◆ 目次 ◆

- 1 「伊澤修在モンテリオール日本国総領事挨拶」
- 2 「総領事館からのお知らせ」
- 3 「寄稿」
- 4 「領事便り」
- 5 「広報・文化便り」
- 6 「日本関連行事等のお知らせ」
- 7 「政治」
- 8 「経済」

1 伊澤修在モンテリオール日本国総領事挨拶

皆様、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。

本年は、いよいよ日本でオリンピックが開催されます。年末年始の休暇を利用して一時帰国しましたが、東京では新しい国立競技場も完成し、オリンピックの準備が着々と進められていました。先日、カナダのオリンピック委員会を表敬しましたが、カナダからは400名以上のアスリート達が参加する予定と伺いました。大代表団です。オリンピックの機会に多数のカナダの方々が訪日をするようになるでしょう。また、昨年12月に、東京渋谷のヒカリエで、ケベックの企業が多数参加して、「光と音」のパフォーマンスが行われ、大人気であったと聞きました。関係者によればケベック企業の持つ技術に多くの日本企業が関心を示したそうです。こうした人々の往来とビジネスの進展が日本との関係を更に発展させてくれると思います。

総領事館では、今月から来月にかけて、3つの祝賀行事を行います。

まずは、日本語補習校を受け入れて頂いている市内のトラファルガー女子校に対して外務大臣表彰を行います。次に、カナダにおける柔道の振興に長年貢献されてきた中村浩之氏が叙勲されたことをお祝いしての式を行います。更に、来月には元ケベック駐日代表で長年日本とケベックとの関係の発展に貢献されたジャン・ドリオン氏に対する叙勲のお祝いの式を行います。

総領事館にとって、本年はこのようなめでたいことから一年が始まりますが、館員一同、引き続き、日本とケベックとの関係の強化、そして当地での皆様の生活の支援に全力を尽くして参る所存です。皆様におかれましては、引き続きご指導、ご協力をお願いします。

2 総領事館からのお知らせ

2020年2月の休館日のお知らせ

2020年 2月11日（火）建国記念の日

2月24日（月）天皇誕生日 振替休日

3 寄稿 ～京都大学・マギル大学ゲノム医学国際連携専攻 大学院生 柴田 美音～

京都大学マギル大学ゲノム医学国際連携専攻の一期生として2018年4月から京大に入学し、2019年4月よりマギル大の正規Ph.D. 学生としてモンリオールに滞在しています。このプログラムは京大とマギル大の両方に学籍をおくことができ、両大学で最低1年ずつ過ごし、両大学の単位を取得することが義務付けられています。一年弱ではありますが、大学院生として過ごしたマギル大留学生へサポートの様子、日本ではあまり馴染みのないCommittee meetingについてご紹介できましたら幸いです。

私が所属するGenome centerはマギル大のダウンタウンキャンパスにあり、Mont Royalのすぐそばに位置しています。研究室には30人ほどのメンバーがおり、フランス語と英語が飛び交います。ゲノム医学は数学、情報学、生命科学の複合領域のため、背景知識が異なる研究者と一緒にプロジェクトに取り組む機会に恵まれています。メンバーに対して簡潔に基本事項の説明をしなければならないことがあり、自分では理解できていたつもりになっていたことを改めて考える機会にもなります。

4月に渡航したため、年度の終わりの時期にあたり数ヶ月で夏休みにはいりました。夏休みの期間には授業も少なく、研究室の定例ミーティングもお休みになりました。夏を楽しもうという雰囲気いろいろな場面で強く感じました。この時期は留学生向けの英語の授業、Graphosというプログラムも盛んに行われ、私も海外からの留学生に向けての英語でのプレゼンテーションの授業に参加することができました。フルタイムの学生は無償でこのような授業を受けることができます。さらに、一年を通して英語ライティングのチューター制度もあります。一学期あたり7時間ほどチューターを活用することができ、レポートやプレゼンテーションの原稿の文法を教えてもらうことができました。

Committee meetingという、日本にはあまり馴染みのない大学院生の進捗報告会が年に1回のペースで開催されます。自分の指導教官以外の2人のPIの先生(PI; Principal investigator, 研究室を主宰している研究者)にCommittee meetingへ加わっていただき、Committee meetingの少し前に今回の報告会で発表する内容のレポートを見ていただきます。当日は進捗報告のためにそのレポートを元にした20分ほどのプレゼンテーションをしなくてはなりません。この会のメリットは指導教官の先生以外からも研究のアドバイスをいただけること、私が大学院で取る授業が私の研究プロジェクトに合っているかどうかまで先生方が細かく助言して下さることだと思います。どの授業を取るかということまでアドバイスをいただけるとは思っていませんでしたので、教授に「何の授業を取るの？」と聞かれた時には、院生にもなってどの授業を取るのか心配されるはずもないと思い、「どういう意味でしょうか？」と聞き返してしまうほどでした。日本では大学院試験を経て入学しますが、マギル大は指導教官の了承をいただいて2年間を過ごした上で今後、Ph.D.の大学院の課程を続けられるか決められます。私も次の2回目のCommittee meetingでは他の学生と同様に大学院生を続けていくことができるかを確認する口頭試問が控えており、マギル大での入学試験に相当するようです。

私にとっては1回目のCommittee meetingは準備がとても大変に感じましたが、終えてみると、この制度は1人の研究者を育てるために厳しく、そして温かいものだと感じております。

1期生の渡航時よりモントリオール領事館の皆さまからご支援をいただきました。モントリオール日本人アカデミー会の先生方から毎日の生活、研究など多岐にわたってアドバイスをいただき、またトビタテJapanの経済支援をいただいております。1人でカナダに来ることに不安もありましたが、充実した大学院生活を送ることができていますことは、私にかかわってくださった皆様のおかげです。皆様のお心遣いに心より感謝し、残りのマギル大での研究に邁進したいと思います。

柴田 美音
京大・マギル大ゲノム医学国際連携専攻 大学院生
京都大学 統計遺伝学分野
マギル大学 Bourque lab

4 領事便り

(1) 当館管轄州での3月の領事出張サービスについて（再度のご案内）

当館では、モントリオールから離れた地域にお住まいの皆様のために、領事出張サービスを実施しています。

本年3月の領事出張サービスについて、以下の日程で実施しますので、お知らせいたします。

近隣にお住まいの皆様におかれましては、是非この機会をご利用くださいますよう宜しくお願いいたします。

○ハリファックス領事出張サービス

日時 : 2020年3月14日（土）午後12時～午後4時

場所 : Halifax Central Library (Windsor Foundation Room (4F))

住所 : 5440 Spring Garden Road, Halifax, NS, B3J 1E9

申込締切 : 2020年2月28日（金）

【詳細】 https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/jp/consular/oneday_halifax_20200314.html

領事出張サービスに関するご照会は、当館領事班までお願いします。

電話 : 514-866-3429（代）

E-mail : consul@mt.mofa.go.jp

(2) 在留届内容確認のお願い（再度のご案内）

当館では、当館管轄地域にお住まいの邦人の皆様に、在留届をご提出いただき、テロや大規模災害等の緊急事態発生時に、皆様に必要な連絡ができる体制を整えております。

緊急事態に備え、また、より良いサービスの観点から、定期的に在留届のデータの確認・更新を行っていただく必要があります。

特に、(1) 滞在資格（長期滞在資格から永住権を取得）、(2) メールアドレス、(3) 住所（転居、

帰国), (4) 家族の追加(出産)等に変更があった場合に, 在留届記載事項変更届のご提出がないケースが多く見受けられる状況です。

在留届をオンラインにより提出済みの方は, 今一度, 在留届をご確認くださいようお願いいたします。身分証明書を持参の上, ご来館いただけましたら, 当館にて在留届を確認することも可能です。

緊急事態に備え, 皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

- ・在留届に関する詳細はこちら

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/todoke/zairyu/index.html>

- ・オンライン在留届(在留届電子届出システム(ORRネット))

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/index.html>

在留届に関するご照会は, 当館領事班までお願いします。

電話 : 5 1 4 - 8 6 6 - 3 4 2 9 (代)

E-mail : zairyu@mt.mofa.go.jp

(3) ハリファックス日本語補習授業校よりお知らせ

ハリファックス日本語補習授業校は, 小中学生合わせて全校生徒 27 名が毎週土曜日の午前中に, 日本語の学習と共にお正月イベントや書道教室, 運動会など, 日本の行事に触れる機会も設けています。

予約制で見学も随時受け付けていますので, 令和2年度の新一年生(2013年4月~2014年4月生まれ)も含めて, 学齢期の児童生徒がいる家庭でご興味のある方は, 以下までメールでお問い合わせください。

jpshalifax1@gmail.com

5 広報・文化便り

当館では, 日本関連行事に関する情報を随時募集しております。皆様ご自身が実施される日本関連行事のほか, 知り合いの方についての情報を(culture@mt.mofa.go.jp)までお知らせください。毎月末までに原稿をいただければ翌月のメールマガジンに掲載することができます。ホームページへの掲載は随時行います。

(1) バレンタイン・フェスティバル

岡山県美作市と姉妹都市関係にあるサンヴァランタン市において, 2月7日(金)から14日(金)まで, バレンタイン・フェスティバルが開催されます。期間中, 日本文化紹介イベントも行われます。

場所 : Municipalite de Saint-Valentin

790, chemin 4e Ligne, Saint-Valentin, QC J0J 2E0

(2) 第31回ケベック州日本語弁論大会

日時 : 3月7日(土) 10時

場所 : ケベック大学モントリオール校

* 大会出場方法は追って当館ホームページに掲載予定です。

(3) 第22回大西洋州日本語弁論大会 (NS 州)

日時: 3月8日 (日)

場所: セント・メアリーズ大学

Saint Mary's University - Halifax, NS

6 日本関連行事等のお知らせ

* 以下の日本関連行事は、必ずしも当館が共催、後援、保証している行事ではありません。また、同行事にて表明される意見等は日本国政府の公式見解とは異なる内容を含み得ます。行事詳細については、各主催団体へ直接お問い合わせください。

* 外部のサイトへのリンクは、あくまでも皆様へのご参考情報です。外部のサイトに掲載されている内容や信頼性に関しましては、当館は一切責任を負いませんのでご了承ください。

(1) Obsession: Sir William Van Horne's Japanese Ceramics

モントリオール美術館にて、ウィリアム・ヴァン・ホーン氏のコレクションである日本の陶器展が行われます。

期間: 11月20日 (水) ~ 3月1日 (日)

場所: Montreal Museum of Fine Arts

<https://www.mbam.qc.ca/en/exhibitions/upcoming/obsession-sir-william-van-horne-japanese-ceramics/>

(2) 2020年ケベックー日本友好協会新年会 (ケベック市)

* 同会場で「領事出張サービス」が開催されます。

日時: 1月26日 (日) 11時 ~ 14時半

場所: Chateau Maizerets, Domaine Maizerets (2階)

2000, Boul. Montmorency, Quebec

会費: 当日現金でご用意ください。

大人 (13歳以上): 23ドル, 7歳 ~ 12歳: 12ドル, 6歳以下: 無料 (6歳以下のお子様は昼食はご持参いただくか, 12ドルのお弁当をお申し込みください。)

申込締切日: 2020年1月19日 (先着100名で終了)

* ボランティアで、パフォーマンスやお手伝いをしてくださる方を募集しています。

参加申込み及び問合せ先: ゴーバン雅美氏 quebecjapon2018@gmail.com

<https://www.facebook.com/associationdamitiequebecJapon/>

(3) 生け花インターナショナル1月の行事

Josiane Girard 氏による古流松藤会ミニデモンストレーション及びワークショップが行われます。ワークショップ用に花器, 鉢, 剣山をご持参ください。

日時: 1月28日 (火) 13時

場所: Mountainside United Church, 687, avenue Roslyn, Westmount

参加費：20ドル（要予約）

問合せ・予約連絡先：田中和子氏（kazuko.dorangeville@gmail.com）

（4）Les Grands Chefs Relais & Chateaux 2020

大阪の料亭「柏屋」のグランシェフであり、ミシュラン3つ星シェフの松尾英明氏による夕食会がITHQ基金によって開催されます。

日時：5月28日（木）18時カクテル，19時食事

場所：Casino de Montreal, 1, avenue du Casino

<https://www.ithq.qc.ca/ecole/fondation/actualites/article/les-grands-chefs-relais-chateaux-2020/>

7 政治

（1）ケベック（QC）州

- ・12月2日，ジャン＝タロン選挙区における州議会議員補欠選挙の結果，ケベック未来連合（CAQ）の候補が43%の得票率で当選。ケベック自由党以外の候補が勝利したのは1965年に同選挙区が設置されて以来初。
- ・12月8～19日，フィッツギボン州経済・イノベーション大臣が，韓国・日本・中国を経済ミッションで訪問。日本訪問は交通電化とリチウムイオン電池の分野の対ケベック投資促進が主な目的。11～13日，同大臣は，ケベック州の新鋭クリエイティブ産業のショーケースとして初めて開催された「Effet Quebec（日本語名はThis is ケベック）」に参加。
- ・12月9～12日，ルゴー州首相がカリフォルニア州を経済ミッションで訪問。映画製作，IT大手，シリコンバレー関係者と面会。また，ニューサム・カリフォルニア州知事とは，トランプ米大統領がこの件でカリフォルニア州を提訴している両州が参加する国際排出権取引制度について話し合った。
- ・12月12日，州控訴裁判所が，政教分離に関する州法21の停止を求める訴えを2対1で棄却。18日，同法に反対する複数団体が，右判決を審理することをカナダ最高裁判所に求めたと発表。
- ・12月13日，ルゴー州首相がトルドー連邦首相とオタワで面会。ケベック市，モンリオールを含む5都市の路面電車プロジェクトについて話し合った。ケベック州は連邦政府に対し費用の40%の負担を求めている。
- ・12月15日，建設大手SNCラバラン社元幹部であるベバウィ氏が，契約と引き換えに当時のリビア最高指導者カダフィの息子に賄賂を渡したなどとされる詐欺と汚職の罪で有罪判決を受けた。18日，SNCラバラン建設部門が，旧カダフィ政権下のリビアでの建設事業をめぐる汚職事件について詐欺の罪を認め，2.8億加ドルの罰金を支払う司法取引に合意。これによりSNCラバラン本社と同社海外部門に対する起訴は取り下げられる。同事件は，トルドー連邦首相が自身の地元にある有力企業SNCラバランの刑事裁判を回避するよう当時の連邦司法長官に圧力をかけたとの疑惑が2019年初めに発覚し，大きく政治問題化していた。
- ・12月19日，シャレ（Mr. Jean Charest）元州首相が，辞任したシーア連邦保守党党首の後任を決める同党党首選への出馬を検討していることを認めた。

（2）ニューファンドランド・ラブラドール（NL）州

- ・12月3日，州営博物館「ザ・ルームズ」職員の雇用に関し不適切な動きがあったとの報告を受け，ボール州首相が独自調査実施を発表。5日，当時「ザ・ルームズ」担当大臣であったミッチェルモア州先進教育・技術・労働大臣が，州議会で謝罪の上2週間の停職処分となった。これに先立ち，議会に提

出された報告書によると、2018年にミッチェルモア氏は、当時州自由党職員であった人物（元連邦自由党大臣で現州副総督のジュディ・フット氏の娘カーラ・フット氏）を通常のプロセスを経ずに「ザ・ルームズ」エグゼクティブ職に採用した。同報告書によると、ボール州首相もフット氏の採用を支持したとあるが、ボール氏はこれを否定している。

- ・12月10日、州政府が州の赤字削減のために2016年から州民に課してきた税（temporary deficit reduction levy）を2019年末をもって廃止すると発表。オズボーン州財務大臣は、州納税者の23%が課税対象となっていた同税は、州の赤字を20億加ドルから6億加ドルまで削減するのに一役買ったと発言。

- ・12月12日、メモリアル大学が次期学長にティモンズ氏（Dr. Vianne Timmons）を任命。2020年4月1日に就任予定。ティモンズ氏はNL州出身でカナダ各地の大学で教鞭を執ってきた。同学史上初の女性学長となる。

（3）プリンスエドワードアイランド（PEI）州

- ・12月4日、州政府が、前自由党政権によって2012年に廃止されていた英語系公立学校の公選制教育委員会を復活させると発表。

- ・12月10日、キング州首相が、製紙企業ノーザンパルプがPEI州対岸に建設許可申請中の新たな排水処理施設について、排出される排水が両州間に位置するノーサンバーランド海峡に与える影響に関連して、連邦政府による環境アセスメント実施を再度求めるべく、ウィルキンソン新連邦環境大臣に書簡を送付。これに対し、12月16日、ウィルキンソン連邦環境大臣が、連邦政府による環境アセスメントは実施しないと発表。

（4）ノバスコシア（NS）州

- ・12月3日、ダルハウジー大学が次期総長に2019年に政界を引退したブライゾン（Mr. Scott Brison）元連邦下院議員（自由党）を任命。就任は2020年5月の予定。

- ・12月10日、ハリファックス市議会がカナディアンフットボールリーグ（CFL）誘致を目的としたスタジアム建設のため、計画を推進するビジネス団体が適当な建設用地を見つけるという条件付きで2,000万加ドル支出する案を可決。11日、マクニール州首相は、州政府が同スタジアム建設に対し財政的支援を行うかについて明言せず。

- ・12月17日、ウィルソン州環境大臣が、ノーザンパルプが上記建設計画に関し追加提出していた資料について、建設可否を判断するための情報が欠けているとし、同社に対し排水処理施設が周辺環境に与える影響に関する環境アセスメント実施を指示。ノーザンパルプが環境アセスメントを提出するには最低でも2年かかるとみられており、その間現在州法により2020年1月末の閉鎖が定められている同社のポートハーバー排水処理場の稼働延長が認められるかどうかについては同大臣は回答せず。

- ・12月20日、マクニール州首相が、ノーザンパルプのポートハーバー排水処理場の稼働延長を認めず。これを受け同社は閉鎖を発表。300人の同社従業員と2,400人いるとみられる林業関係者は職を失う。マクニール州首相は、ノーザンパルプは現排水処理場閉鎖まで5年間の猶予があったにもかかわらず、満足のいく代替案を提案できなかったと同社を非難した上で、同社閉鎖により影響を受ける人向けに5,000万加ドルの緊急財政支援実施を発表。ミクマク・コミュニティが存在するポートハーバーで1967年から排水を排出してきた同処理場について、マクニール政権は2020年1月末に閉鎖すると定めた「ポートハーバー法」を2015年に可決していた。

（5）ニューブランズウィック（NB）州

- ・12月1日、NB・オンタリオ・サスカチュワンの3州首相が、小型原子炉「小型モジュール炉」（Small Modular Reactor, SMR）の研究開発と建設に向け協力するための覚書を締結。同覚書には法的

拘束力はない。SMRテクノロジーはまだ実用段階になく、稼働までに5～10年かかるといわれている。脱石炭と温室効果ガス排出削減を目指すNB州は、前州自由党政権が2018年にSMR研究支援のため1,000万加ドル支出しているが、NB企業ARC Nuclear Canadaが最近カナダ原子力安全委員会(CNSC)事前設計審査第1フェーズをクリアした。9日、ホルランド州天然資源・エネルギー開発大臣が、SMRは州内唯一の原子力発電所が位置するポイント・ルブロー(州南部)に建設するのが適当である旨発言。

- ・12月7日、モンクトン大学は、次期学長にプルドーム(Dr. Denis Prud'homme)現オタワ大学教授を任命。就任は2020年7月の予定で、任期は5年間。

- ・12月11日、連邦政府は、州政府が11月に提出した一般消費者向けの炭素税課税計画を承認。NB州の課税システムは既に承認・施行されているPEI州やNL州の制度を基にしており、炭素税を課す代わりにガソリン税を減税し、当面は消費者の負担増にはならない見込み。2020年4月1日からNB州の課税システムに切り替わる予定。

- ・12月12日、2020年1月の州介護施設職員によるストライキ合法化前に関連法改正法案の可決を急ぐヒッグス州首相は、同法案を否決されれば解散総選挙実施に信任を得たとみなす旨発言。

- ・12月19日、ホルランド州天然資源・エネルギー開発大臣が、私有林木材の市場シェア拡大促進を目指し、今後5年間は州有林木材供給は増やさないと発表。

- ・12月20日、州議会閉会。ヒッグス州首相が信任投票として臨んだ「州介護施設における基本的サービス法改正法案17」が24対22で可決。同法案は介護職員のストライキ実施や職員が雇用主に要求する給与水準に制限を持たせる内容。その他主要法案のうち、自治体と警察消防組合との団体交渉に関する州労使関係法の改正法案、公立学校と認可保育園に通う子供の予防接種を義務付ける関連法改正案は、3月開会予定の州議会に持ち越し。

- ・12月23日、NBアカディア協会(SANB)が、次期州副総督には英仏バイリンガルの人物を任命することを連邦政府に求め、州上級裁判所に申し立てを行った。9月に就任したマーフィー州副総督は、英語話者。

(6) 各州世論調査結果(未確定分は除く)

ア 州議会選挙(政党支持率)

- ・NL州(ナラティブ(Narrative Research)調べ(以下同じ)、10月31日～11月22日): 自由党42%, 進歩保守党(PC)33%, 新民主党(NDP)24%, その他1%

- ・PEI州(11月1～28日): PC38%, 緑の党29%, 自由党26%, NDP6%, その他0%

- ・NS州(10月31日～11月22日): 自由党42%, PC26%, NDP21%, 緑の党9%

- ・NB州(10月31日～11月22日): PC37%, 自由党31%, 緑の党21%, NDP7%, ピープルズ・アライアンス3%, その他0%

イ 連邦議会選挙(政党支持率)

なし。

8 経済

(1) QC州

- ・12月8日、10月に-googleが初のクラウドゲームサービス「Stadia」コンテンツ開発拠点として開設したモントリオール・スタジオ代表は、モントリオールのゲーム業界の成長はとどまるところを知らず、ゲーム制作に理想的な環境が整っていると発言。

- ・12月10日、参加3国が合意に達した米国・メキシコ・カナダ協定(USMCA)について、ブランシェ・ブロック・ケベコワ党首がケベック州のアルミニウム業界への悪影響を懸念し、カナダの批准

反対を表明。問題になっているのは自動車製造に北米産アルミ部品を最低70%使用するという新たに加わった条項で、ケベック州アルミ業界はメキシコが中国産アルミで部品を製造していると指摘している。

- ・12月12日、丸紅が、マグネシウムの生産事業を立ち上げる Alliance Magnesium Inc. (AMI) へ出資参画することについて合意、株式引受契約を締結。丸紅の出資額は1,670万加ドル。同事業はケベック州に豊富に存在する石綿鉱山残留物からマグネシウム成分を抽出するもので、総工費は1億加ドル、2020年より着工・生産販売開始予定。

- ・12月23日、リチウム鉱山開発会社ネマスカリチウムが、企業債権者調整法の適用（日本の会社更生手続きに相当）を裁判所に申請。6億加ドルの出資を提案していた英パリングハースト・グループとは合意に至らず、ネマスカリチウムは新たなパートナーを探す。同社には州政府が1.3億加ドル、日本のソフトバンクグループも約1億加ドル出資している。

- ・12月23日、ボンバルディアがアメリカ連邦航空局（FAA）より、大型ビジネスジェット「グローバル5500」型と「グローバル6500」型の型式証明を取得。

（2）NL州

- ・12月3日、NL独立漁師連合（FISH-NL）が、組合員数が規定に満たず解散。FISH-NLは、州内の別の漁業関係者組合である漁業従事者連合組合（FFAW）に代わる団体となることを目指していた。

- ・12月6日、印刷業のコーナールック・パルプ・アンド・ペーパーが、従業員の一部を正規職から外し、年末年始に2週間操業を停止すると発表。22人の雇用に影響。

- ・12月18日、連邦環境・気候変動省は中国海洋石油集団（CNOOC）に対し、ニューファンドランド島東方沖400kmに位置するフレミッシュパス海盆における試掘を許可。CNOOCは2鉱区に対し3億ドルで落札した。

- ・12月20日、マーシャル・ナルコーCEOは、工期遅延と予算超過が続くマスカラット滝発電所（ラブラドル）について、この冬ニューファンドランド島への電力供給ができるか状況は不透明であるとし、さらなる工期遅延の可能性を示唆。

（3）PEI州

- ・12月13日、コンフェデレーション橋の車両通行料が2020年1月1日より、普通車で75セント値上がりし48.50加ドルとなる。通行料は島外に向かう時のみ発生する。

- ・12月18日、州政府が、新たに州内6ヶ所に電気自動車充電ステーションを設置することを目指し公募を開始。州政府は2019年に6台の電気自動車を購入している。

（4）NS州

- ・12月5日、州政府が全国に先駆けて、フレーバー付き電子タバコと「ジュース」と呼ばれる専用溶液の販売を禁止すると発表。2020年4月1日施行予定。

- ・12月5日、マクニール州首相は、2020年にハリファックス・広州（広東省）間を中国南方航空の直行チャーター便が運航すると発表。9月と10月に1回ずつ、中国からの団体ツアー客がNS・PEI・NBの3州を訪れる。復路では観光客と一緒にロブスターも出荷予定。

[在モンリオール総領事館メールマガジン]

○このメールマガジンは送信専用アドレスから送信されています。本メールあてに直接返信なさらないようお願いいたします。本メールマガジンに関するご意見・ご要望は以下のメールアドレスあてに送

信してください。 emagazine@mt.mofa.go.jp

○配信中止・配信先変更を希望される方は、「配信中止（又は登録解除）」、「配信先変更」を希望する旨明記の上、 emagazine@mt.mofa.go.jp までご連絡願います。登録完了後に確認のメールが届きます。

ただし、在モントリオール総領事館ホームページ内の読者登録ページから登録を行った方は、同ページ内の、「利用者情報の変更／削除」から同様の手続きが行えますので、そちらをご利用ください。

○バックナンバーの閲覧は、以下のホームページからお願いいたします。

https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itpr_ja/mailmag.html

○参考ホームページ

首相官邸ホームページ（ www.kantei.go.jp ）

外務省ホームページ（ www.mofa.go.jp/mofaj/ ）

在カナダ大使館ホームページ（ www.ca.emb-japan.go.jp ）

当館ホームページ（ https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html ）

当館 Facebook（ www.facebook.com/JapanConsMontreal ）

○発行：在モントリオール日本国総領事館

Consulate General of Japan in Montreal

1 Place Ville Marie, Suite 3333,

Montreal, Quebec, H3B 3N2, Canada

○本メールマガジンからの転載を希望する場合は総領事館メールマガジン担当

（ emagazine@mt.mofa.go.jp ）までご相談ください。

■-----■